



～礼儀と節度を考える～

平成武師道

〈人間活動学〉

我が国、日本は強いのだろうか？

それよりも平成時代を何の危機感も無くただ生きている我々にとって、日本が強いかわいかなど今さら考える必要があるだろうか？

国の強さ？ 国の弱さ？ 何が強さだ？ 弱いって何だ？

多くの日本国民はそんな事よりもまずは自分の心配で精一杯に違いない。

自分が強くなる事で精一杯に違いない。国の事など考えている余裕さえないのだ。地球や宇宙など問題外だ。

隣に住んでいる人の事でさえ無関心。

若い頃は好き勝手、年を取れば取ったで、自分が一番偉く成ったかのような我が儘放題。

これが平成時代なのだ。これで当たり前なのだ。

ただ本当にこれで良いのだろうか？

何か気持ち悪くないか？ 心の中がパッと晴れた気分にならないのは何故だろう？

本当の笑って何だろう？

お笑い芸人のギャグって人の滑稽さや侮辱するのって面白い？ うん。 お笑い芸人の司会って面白い？ まあね。

でも本当の笑って何か違うような気がする。

人の弱点や失敗の揚げ足を取って、ギャグとして笑い飛ばすのが、本当の笑いなのだろうか？

そんな笑いに満ちている日本は芯がしっかりとした強い国と言えるだろうか？ 言えるよ。

だって面白かったらそれで良いのだから。

人の事など知ったことじゃないよ。 誰も助けてくれないし。

確かに多くの日本人は自己中心的な面は強くなった。それはそれである意味、芯は強くなったのかも知れない。

何たって他人がどうなったって、知らん顔ができるくらい凶太い精神力が持てる国になったのだから。

その代わりに、いざ自分に災厄が訪れたりしたら、ギャーギャー騒いで他人に助けを求めに行く。

助けてくれたら当たり前。助けてくれなかったら悪党扱い。どうしたらそんな風にポジティブになれるのだろう。

それは普段から自分の事を棚に上げて、何でも人のせいにする癖がついているから。

学校の教師が悪い。塾の先生が悪い。会社の上司が悪い。社長が悪い。

そりゃ悪いと言えばどこか悪いところがあるかも知れない。

だけど試験を受けに行ったり、面接を受けに行ったりして、入らせて下さいってお願いしたのは、一体誰だったかな？

誰が悪いと言う前に、まずは自分がそこを選んだのだから、人の事をブツブツ言っていないで、結局自分のせいを認めるべきではないだろうか。そして、次に相手の悪い所を悪いで終わらせないで、少しでも良くしていこうと努力をするべきではないだろうか。その努力ができないのなら、最初から文句は言わないほうが良いかも知れない。

結局、自分が一番弱いのだよ。人が悪いとか駄目だとか言う前に、まずは自分の心に負けてしまっているのだよ。

自分の心が弱くなってきているのが無意識に感じているから、他に敵を作って悪者にしてしまうのだ。

この国は本当にどこかおかしくなった。

日本という家族はどうしてバラバラなのだろう。

政党がいくつも分かれて、お互い足の引っ張り合いをしながら貶し(けなし)合っているのも構わないけど、いつまでたっても肝心の答えが出てこない。

ワイドショーでどこの誰だか分からない解説者やタレントごときが、さも世の中の代表になったかのように、他人の事を最初からさも全てを見てきたかのようにグチグチ言うのも別に構わないが、それも表面的な事だけで肝心の事は何にも答えが出ない。

多くの人々はそんな日本の様子を、テレビを通して観ていても、まるで他人事。どうせ我々は一般人ですもの。そんなレベルの高い事なんて一生関わる事ないですわ。それよりもヨン様のドラマ観ないといけないわ。

まあ、こんな感じですか。

結局、この国、日本が強いとか弱いなんて誰も考えようとしていないのだ。

我々のご先祖様が命懸けで築いてきたこの国の歴史や伝統も全く興味ない人ばかり。

だけど考えてみよう。

ずっと遙か昔から昭和にかけて、たくさんの人々が戦い、傷つき多くの血を流して現在があるということ。



佐々木